

アガベ

日本社会事業大学同窓会北海道支部【（2014年11月21日発行 第9号）

（事務局・仁木町大江2-457 大江学園内 0135-32-3662）

2014年秋季セミナーを開催

11月2～3日（日・月）、標記を開催しました。

今回の開催地は、道南ブロックの担当（和泉、千葉、柏原諸氏）で、函館市です。

第1日目は、「日本社会事業大学市民公開セミナー・はこだて地域福祉フォーラム」として、函館市総合福祉センターにおいて開かれました。

定刻に千葉さんの総合司会で開始され、村上会長が主催者を代表してのあいさつを行いました。

まず、開催にあたり全面的なご協力をいただいた函館市関係者等に感謝し、社大とはどういう大学であるのかを説明。また、このフォーラムの意義について話をしました。

続いて、ご来賓として種田函館市保健福祉部長が、歓迎のご挨拶をしてくださいました。また、高齢者福祉を巡る最近の状況についても言及され、函館市の施策についての説明がありました。

これより、標記フォーラムとなり、NPO法人はこだての家理事長・和泉氏（学部14期）が、「誰もが安心・自立して暮らせる地域づくりに向けて」と題した基調講演を行いました。

目と耳に障害がある人たちが、「家族や仲間たちと離れることなく、住み慣れた函館に住み続けたい」との思いを形にするために、日本で初めての視聴覚障害者用賃貸住宅「はこだての家日吉」を開設するに至った経過がまず述べられました。この過程だけでも大変興味深く、参加者は和泉氏の話に聴き入っていました。



その上で、ここに入居している人たちの生活上の問題をどう解決し、どのような個別支援を行っているのか、を具体的に説明しました。

そして、「誰もが安心・自立して暮らせる地域づくり」の大切さを強調しつつ、今後の展望を熱く語りました。

続いて、シンポジウム「高齢者を支えていくための地域と家族の助け合い」に入りました。司会を柏原氏が務め、シンポジストは、成澤・函館市保健福祉部高齢福祉課長、阿知波・函館市社会福祉協議会事業部長、永澤・函館の地域福祉を考える会事務局長の3氏です。それぞれの立場から、政策的展開、地域での取組についての発表がありました。

これを受けて、全体討論となり、会場からのご意見をいただきつつ、助言者である村上会長や、会長のご指名を受けた木村副会長が、政策的実践的視点からの助言を行いました。

時間の関係もあり、些か尻切れ蜻蛉的ではあったものの、内容の濃いフォーラムを開催できました。

夜は、啄木亭において、社大関係者の懇談会を行いました。今回は道内メンバーに加え、伊藤同窓会顧問、木村及び竹田副会長、畑戸補佐も出席してくれ、賑やかな宴会となりました。懇談は、かなり遅い時間まで続いたようです。

翌3日は、施設見学です。

戸井福祉会の「潮寿荘」（特養）と「潮太郎」（小規模多機能）を観ました。



また、車で移動し、「はこだての家日吉」に行き、施設内見学と昼食会（利用者さんと同じ昼食）を行いました。



移動の車中では、昨夜の懇親会での論議の延長線として、地域福祉の在り方、法人の役割等について貴重な論議が展開されていました。このことについては、次回の秋季セミナーを始め、今後何らかの形で論議を深めていきたいと、村上会長は大変意欲的でした。

全体としては、「日吉」見学にて、「これにて解散」となりました。電車等の時間のある木村副会長らは、五稜郭見学へと出掛けました。

また、函館出身の金子事務局長よりは、「是非、This is HAKODATE!」を伊藤顧問らに観せたい」との希望があり、猛風の立待岬、函館公会堂、各種教会を始めとする市内の観光スポットを回ってくれました。勿論、お土産購入の時間もありましたよ。

なお、伊藤さんたちは、函館駅2階のレストラン街にて夕食を摂り、19時過ぎの飛行機で羽田へと向かったのです。

社大同窓会としての参加者は少なかったものの、たいへん実りある秋季セミナーとなりました。道南ブロックのみなさん、ありがとうございます。

2015年秋季セミナーは「道北で！」

懇親会席上、「来年のセミナーはどこ？」との会長のご発言。

「この間の流れでは、道北です」と、金子事務局長。

「では、道北をお願いします」に対して、当日参加の小林氏より、「三上副会長の諒承があれば」との回答。

「然らば、週明けに、三上副会長に打診します」ということで、11月4日に三上副会長に打診のFaxを送信しました。原則これで、来年は「道北開催」となる見込みです。開催日程、開催場所等は実質的には、1月の新春セミナー以降に具体化していく予定です。

2015年の新春セミナーは、1月24日(土)です

例年のとおり、新春セミナーは、1月の第4土曜日のため、1月24日となります。場所等については、改めてご案内しますので、多くの方々のご参加をお待ちしています。

北海道は同窓会活動のパイオニア

日本社会事業大学同窓会副会長 木村尚文(学部15期卒)

前日、同期の今泉さんに誘われ、これまた同期の松原さんとともに秋田同窓会に参加しました。同窓会が終了し、「温泉に入っていこうよ」と、今泉さんに強く誘われたものの、「明日の函館フォーラムに参加しないと、高田君に怒られる！」と泣きの涙で、津軽海峡を渡りました。

函館駅に降り立ち、早速、総合福祉センターへと向かいました。

「ご苦労さん」。満面の笑みで同期の高田さんが出迎えてくれたのも束の間、「じゃあ、会場設営を手伝ってよ、副会長」と言われました。障害者の団体が使っていた会場を模様替え。まずは余計な椅子を運び出しました。と、ギクリ！！腰を痛めてしまいました。

フォーラムそのものの内容は、上記のとおりですので、割愛させていただきます。ただ、とても深い内容の論議であったことだけは、報告しておきたいと思います。

後片付けは、北海道の「若手」メンバーに任せ（そのくらいは、良いですね！）、伊藤顧問たちと共に、湯の川温泉「啄木亭」に向かいました。北海道ではかなり有名なホテルのようです。実は、事務局との連絡がちゃんとしていなかったのか、私のホテル宿泊予約がなされていなかったのです。「ええ、私はどこに泊まるの？」、采配を振るっているらしい高田さんに強訴し、「すまん、スマン」では済まされないけれど、どうにか部屋を

確保してもらいました。

最上階にお風呂があり、まずは疲れと腰を休めました。

19時から、北海道同窓会員の懇親会です。伊藤顧問、竹田副会長、畑戸補佐と共に参加しました。北海道らしい海の幸に舌鼓を打ちつつ、日本酒をついつい煽ってしまいました。北海道は真面目な同窓会のようにあり、宴会中にも、「日本の社会福祉はこれからどうなっていくのか」とか、「地域を支えていくためにこそ、社大はある」といった格調高い発言が、村上道同窓会長や木村同副会長らから出て、みな真剣に語り合っていたのでした。

その後は、やはり二次会。ここでも、熱い議論が交わされていました。一応の解散は0時でした。しかし、我が部屋では、一旦寝たはずの先輩が起き出し、またまた社会福祉論議が白熱したのでした。私の記憶では、寝付いたのは午前3時で、あったかなあ。

翌日は、「秋季セミナー」の2日目となり、2箇所の施設を見て回りました。東京とは違う地域性が出ていて、とても興味深いものでした。和泉先輩の施設で昼食を摂り、私は15時発の列車で東京に戻るつもりでいたため、「まだ時間がある」ということで、竹田副会長や小林先輩らと五稜郭を見学することができました。北海道の社会福祉、地域福祉の一端を垣間見ただけでなく、歴史についても触れることができたことは、私個人にとっても大変有り難いことでした。全体として、とても内容の濃い地域セミナーであった、と言えます。

さて、母校同窓会各支部は、全国でそれぞれの特徴を活かした活動を展開しています。ただ、このような形で長年実施しているのは北海道だけであり、同窓会活動のパイオニア的な存在となっているといえます。聴くところでは、1月に新春セミナー、秋には秋季セミナーと、年2回の同窓会を30年以上続けているとのことでした。

特に、村上会長になってからは、同窓会内部での学びを深めると同時に、そうした学びを地域に発信していく努力をしています。そのような意味では、昨年道央ブロック（会場は小樽）で取組始めた北海道同窓会の市民公開セミナーは、全国で先駆的かつ画期的な企画であると思います。

今後このような草の根的な取り込みが、他の支部にも広がっていくことが社大同窓会自体の活性化に大きく繋がっていくのではないかと強く期待するところです。事実、少なくとも支部が様々な活動を始めているように思えます。

この輪の中に今後、清瀬世代の若い同窓生のみなさんが参加し、同窓会活動がさらに広がっていくことが、社大同窓会の重要な課題でもあります。

同窓会として、各地で取り組まれているこうした活動をしっかりと把握し、ホームページや会報等を通じて、他の支部に知らせていくことも重要な課題です。

このたびは秋田、北海道の同窓会に参加することができ、本当に良かったと感じました。私たちもさらなる努力を重ねていきますので、各支部のみなさんも何とぞ、ご支援、ご協力をお願いします。

**（なお、畑戸補佐からいただいた原稿は、紙面の都合上、
割愛させていただきます。畑戸さん、ゴメンナサイ！！）**

see you again